

## 研究結果報告書

### 明治期の小新聞における朝鮮表象とアジア認識の研究

所属：弘益大学校(前、高麗大学日本研究所)

役職：助教授(前、研究教授)

氏名：李先胤

#### 研究結果

本研究では、近代初期日本の新聞研究及び対外論の研究で疎外されてきた、大衆新聞(小新聞)における朝鮮関連記事と連載物を、殖民の対象としての朝鮮観が成立する直前の近代日本で〈朝鮮〉認識を形成させた重要資料とみなし、新しい大衆メディアにおける対外観の形成の一例として分析した。20世紀に入り殖民主義的観点が固定される以前に書かれた、近代初期の〈朝鮮〉及び〈在朝日本人〉の表象には、近代初期における日本の朝鮮認識の推移が反映されている。大衆的新聞メディアの誕生期における『仮名読新聞』、『絵入自由新聞』などの大衆新聞に掲載された対外論、特に朝鮮関連の記事、連載物、挿絵、錦絵新聞に描かれていた伝統的文化の所持者としての朝鮮人像は、1880年の中頃に〈脱亜論〉や〈アジア主義〉などによる対外論が確立される時期に至り、伝統より混沌や暴力(日本との衝突を含む)の演者としての色を強化していく。1882年の朝日新聞における春香伝の翻訳の連載にも垣間見える、儒学などに基づいた伝統的思想や教養の地としての朝鮮像は、その後の新聞記事では減少していき、むしろ在朝日本人と現地の朝鮮人間の衝突を報道する記事が目立つようになる。そしてこれらの大衆メディアにより形成されていく大衆的朝鮮観は、明治政府の対朝鮮認識及び対外政策の過程とも重なる形で、朝鮮との関係に武力もしくは兵力が介入する必要があることを自然に受け入れる形で形成されていった。当時朝鮮の開花派の主演であった金玉均、朴泳孝などの人物への興味も、絵入りの記事掲載などで垣間見える。これらの資料により、弾圧される朝鮮の開花派とこれを支持する日本と、時代遅れの朝鮮の保守派という対立的イメージが強化されたと考えられる。これらの研究は、日韓両国間の近代的認識の構築過程の一部を確認することができる民間レベルにおける文化的表象研究の重要資料として有意義であり、今後持続して行われる必要がある。この研究成果は、日韓の相互認識を深め、相互理解のある友好関係の構築に寄与できる重要な資料と期待され、論文、著書などによる発信を持行う予定である。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題名 An ethical gaze upon late 19th Century Choseon and Japan written in serial newspaper novel

発表者名 Sunyoon Lee

会議名 The Seventh International Conference on Ethical Literary Criticism (IAELC)

日時 2017年8月10日

場所 Queen Mary University of London

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名 明治期日本語小新聞に見る朝鮮人造形の例(仮題)

発表者名 李先胤

論文掲載誌 日本言語文化

掲載時期等 2018年6月号予定

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)